

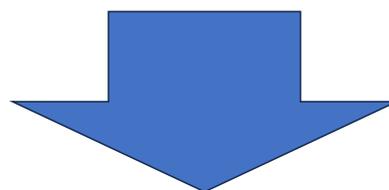
元肥の施肥記録（対照区とテスト区）

対照区

- 既存区（対照区）においては、従来の一発肥料のみ施肥しました

テスト区

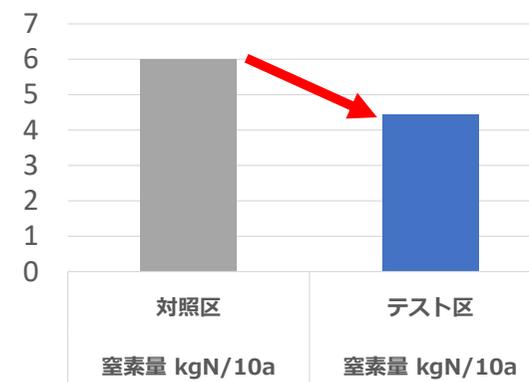
- テスト区においては、従来の一発肥料を3割に減らし、以下のものを施肥しました。
- ✓ 1/11 H-85フロアブル 280mL/ 10a
- ✓ 3月末 トリプルN-22 1000mL/ 10a



一反当たりの窒素量
対照区 : 6.0kgN/ 反
テスト区 : 4.43kgN/ 反

➔ **26%減の年間窒素施肥量**となりました。

年間窒素量



追肥の実施記録 (テスト区のみ)



元肥を減らしたテスト区に対して、追肥として窒素のっていない資材をドローンで散布しました。対照区は一発肥料のみで、追肥は行っておりません。

- 6/17 中干しの時期 : CaSi 200mL/10a,
- 7/5 止葉の時期 : CaSi 200mL/10a, スプリーム 300mL/ 10a,
- 7/25 開花初期 : ダイカップ 120g/ 10a

※BBCH：作物の成長段階を分類するための国際的な基準（00～99の値）
イラストは、xarvio(ザルビオ)様のHPから拝借しております

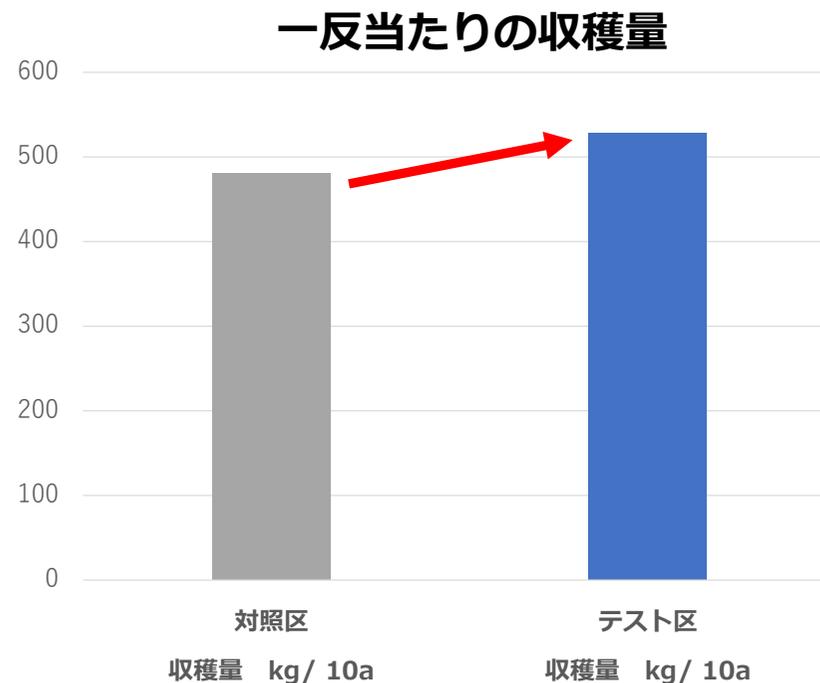
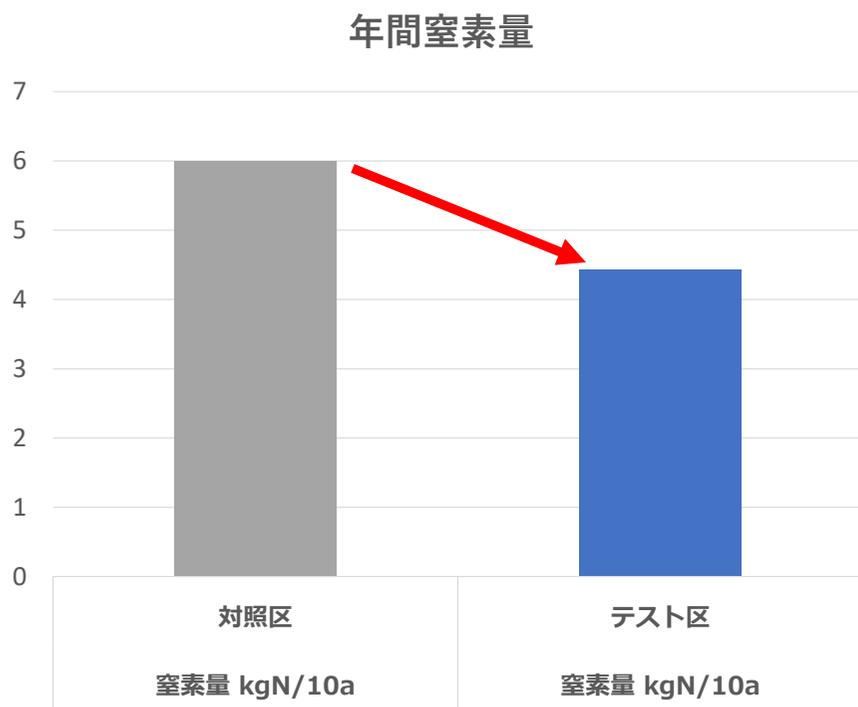
	活性期	分けつ期	最高分けつ期	幼穂形成期	穂ばらみ期	出穂期	乳熟期	糊熟期	黄熟期	成熟期				
BBCH*	1葉期 (直播)	分けつ 開始期	最高 分けつ期	幼穂形成期 (幼穂長1-2mm)	止葉の 出始め	穂ばらみ期	出穂直前 芒の出始め	出穂始 10%出穂	出穂期 50%出穂	穂揃期	乳熟期	糊熟期	成熟期 (完熟期)	過熟
	11	21	29	32	37	43	49	51	55	59	75	85	89	92
施肥する資材			中干し		BBCH:37 止葉		BBCH60: 開花初期							
					・ スプリーム		・ ダイカップ							
			・ CaSi		・ CaSi									

テスト結果 (収量)

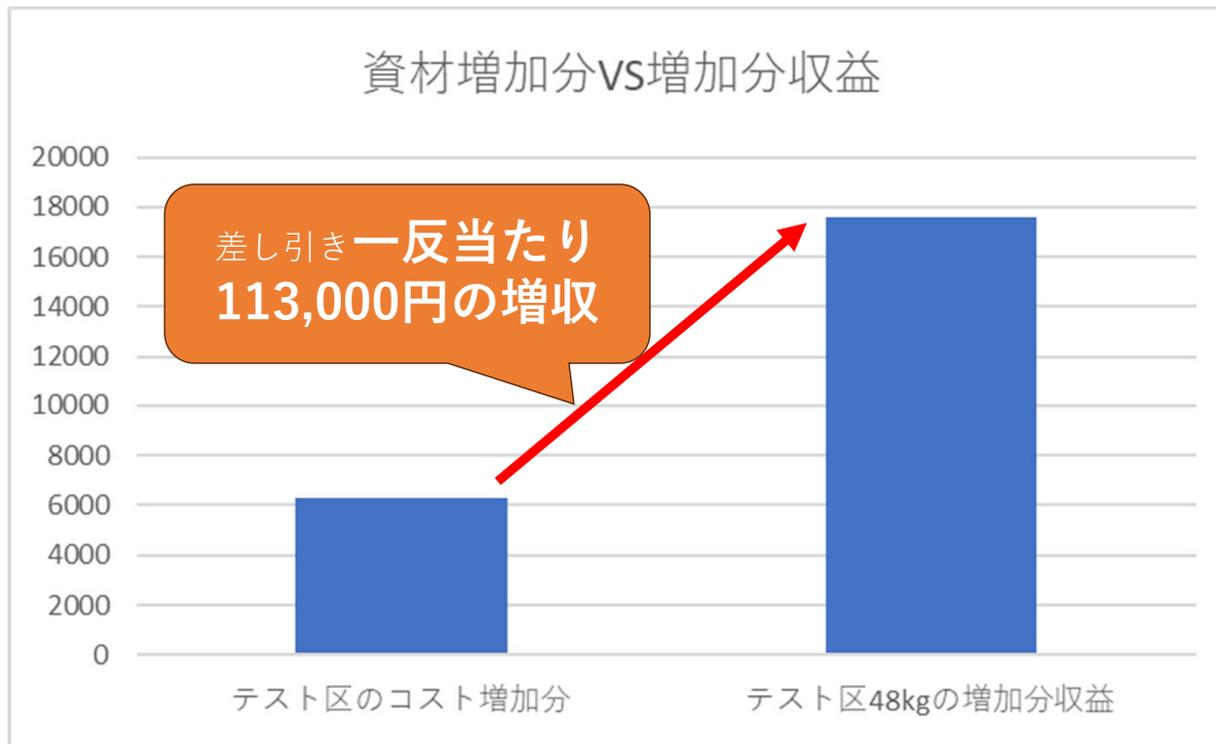


年間窒素量を2.6割減らしましたが、一反当たりの収穫量は1.1倍に増えました。

対照区が480kg / 10aに対し、テスト区は528kg / 10a の収穫量です。つまり一反当たり48kgの収量アップ
一発肥料を3割減にし、また年間窒素量を26%少なくしても、収量UPにつながりました！



テスト結果 (資材のコスト VS 収益)



対照区の資材は一反当たり8000円、テスト区の資材は14,300円です。資材費用だけを考慮すると、テスト区では6,300円のコスト増があります。しかし、収量が1.1倍に増加し、48kgの増収が得られます。

60kg コシヒカリ買取価格を22000円とすると、48kgの収量アップは、この増収に対する買取価格は17,600円です。**資材コストを差し引いた後の実質的な増収は、11,300円となります。**このように、資材のコストを考慮に入れても、十分な増収が見込まれる結果となっています。

コシヒカリ一等米60kgの買い取り価格：22,000円を想定
(令和6年秋現時点)